

「平成30年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	いわき市立磐崎中学校、磐崎小学校
推進協力校名	いわき市立藤原小学校

確かな学力をつけるための「主体的・対話的で深い学び」の工夫をめざして

～基礎基本の定着と自ら考え表現する力の向上を図る学習指導を目指して～ (パイロットⅠ)

～豊かなかかわりを通して、ともに高め合う子供の育成～ (パイロットⅡ)

1 パイロット校の取組内容

(1) 数学科の「タテ持ち」算数科の「T Tによる教科担任制」の取組について

パイロット校Ⅰでは、3名の教師による「タテ持ち」を実施し、パイロット校Ⅱでは教師が専門性を生かしての「T Tによる教科担任制」や「交換授業による教科担任制」を実施した。

<パイロット校Ⅰ 「タテ持ち」> (数学)

	1組	2組	3組	4組	5組
1学年	A	A	B	B	C
2学年	A	B	B	C	B
3学年	A	C	B	C	

教諭 A (教務) 講師 B (2学年副担) 教諭 C (3学年副担)

<パイロット校Ⅱ T Tによる教科担任制> (算数)

5年1組	5年2組	5年3組
推進教師 (T 1)	推進教師 (T 2)	推進教師 (T 2)
担任 A (T 2)	担任 B (T 2)	担任 C (T 2)

<パイロット校Ⅱ 交換授業による教科担任制> (国語)

5年1組	5年2組	5年3組
担任 A (T 2) 週1時間	担任 B (T 2) 週1時間	担任 C (T 1) 週1.5時間

国語を専門とする学級担任Cが、交換授業により

5年生3学級の国語を担当する。

漢字指導は学級担任が行っている。



(2) 「授業スタンダード」を活用した授業研究について

○研究仮説の設定と実践 (パイロットⅠ)

授業改善の手がかりとしての「授業スタンダード」の活用

- A 生徒が興味を持ち、意欲的に取り組む課題を設定する。
 B さまざまな意見や問いを生み出す学び合いの場面の設定する。
 C 次の学びへとつながる学習の振り返りができる場面の設定する。



授業にA、B、Cを意識して取り入れた。(指導案に明記する)

<教師アンケート 抜粋>

(4件法)

設問	内容	6月	12月
1	生徒に課題追究(解決)の計画や見通しを持たせている	2.7	3.2
2	生徒は、授業で行われる伝え合いの場で、自分の考えの根拠をもとに伝えることができる	2.7	3.1
3	新たな学びにつながる終末を工夫している	2.6	2.9
4	授業研究会に主体的に参加している	2.3	2.9
5	「授業スタンダード」を活用している	2.9	3.3

<生徒アンケート 抜粋>

(4件法)

設問	内容	6月	12月
1	課題や問題を解決するときに、過去に学んだことや知っていることが、役立つかどうか考えます	3.2	3.3
2	自分の考えや、感じたことを、友達や先生に説明したり、発表したりする時間があります	3.3	3.4
3	授業の最後に、今日学習したことを振り返り、次の学習に役立つかどうか考えます。	3.0	3.1
4	授業で習ったことが、将来の自分の生活に生かすことができると思うことがあります	3.2	3.2
5	授業では、達成感や満足感を感じます	3.2	3.2

○研究授業の推進 (国語・算数) (パイロットⅡ)

- ① 「授業スタンダードチェックシート」を使った授業の振り返りと校内研修の充実
 ② 「児童意識調査」の実施と授業実践への活用
 ③ 知識・技能面の基礎の定着を図るための「いわさき漢字計算大会」
 ④ 授業の基盤となる「望ましい人間関係」「表現力」の涵養のためのエンカウンター



○パイロットⅠ、Ⅱ合同の取組

- ① 研究授業、要請訪問の小中連携による、授業交流
 ② 「ステップアップテストの実施」

2 推進協力校の取組内容

推進協力校 いわき市立藤原小学校の取組

パイロット校（磐崎中・磐崎小）と推進協力校（藤原小）との共通認識、同一歩調のもと、連携を図りながら研究を推し進めてきた。

- (1) 指導過程の中に授業スタンダードとの関連を太字で盛り込み、意識化を図った。
- (2) 「チェックシート」を使用して授業を振り返るようにしている。
- (3) 「共有させるための教師の働きかけの例」の言葉を意識して使用している。
- (4) ①「授業スタンダード」の視点から見た算数の授業のポイント
②「授業スタンダード」の視点から見た国語の授業のポイント
③自分の授業案を「授業スタンダード」の視点から見ようなどの資料を作成し、授業づくりに生かせるように活用している。
- (5) 全学年で研究授業（国語2回、算数4回）を実施し、県教委や市教委の指導主事よりご指導いただいた。
- (6) 福島大学附属小学校の先生をお招きし、師範授業参観を実施した。
- (7) 3校連携で互いの学校の授業研究会に参加できるようにしている。

3 成果と次年度へ向けて

(成果1) TTで指導にあたることで、T1は教材研究に専念でき、T2の学級担任が机間指導や個別指導を効果的に行うことができた。(磐崎小)

(成果2) アンケートを行い、課題を明らかにしたことにより、各指導法の工夫、改善に取り組めた。(共通)

(成果3) 生徒、教師ともに授業に取り組む意欲の高揚がみられる。(アンケートより) 教科部会、要請訪問、タテ持ちの授業やTTの授業を通して、教師の意見交換が活発に行われたことにより先生方の指導力の向上につながった。(磐崎中)

(成果4) パイロット校（磐崎中・磐崎小）及び推進協力校（藤原小）との連絡協議会の実施や授業研究会に互いに参加し合うことで、小学校における学習指導法を参考にすることができ、そのことをもとに、中学校の指導法の改善に生かすことができた。

(課題1) 「授業スタンダード」の教科に応じたさらなる活用について (共通)

(課題2) 負担感の少ない互見授業の持ち方について (磐崎中)

(課題3) 「自己マネジメント力の向上」をめざす、家庭学習の取りませ方について (共通)

(課題4) 「ステップアップテスト」の持ち方について (磐崎中)

(課題5) 担任をしながらの教科担任制は、各担任にかかる負担が大きい。(磐崎小)

